

感染症対策の手引き

1. はじめに

本資料の使い方	2
必須の感染症対策	3
全企画	3
飲食物を提供する屋内企画	3

2. 屋内企画

屋内企画共通の感染症対策	4
企画内容ごとの感染症対策	4
展示を行う企画	4
歌唱を行う企画	4
集団で楽器の演奏を行う企画	5
バンド演奏を行う企画	5
パフォーマンスを行う企画	5
来場者体験型の企画	5

3. 屋外企画

屋外企画共通の感染症対策	6
企画内容ごとの感染症対策	6
歌唱を行う企画	6
集団で楽器の演奏を行う企画	7
パフォーマンスを行う企画	7

4. ステージ企画

ステージ企画共通の感染症対策	8
企画内容ごとの感染症対策	8
歌唱を行う企画	8
集団で楽器の演奏を行う企画	8

5. 構外企画

1.はじめに

本資料の使い方

- 『感染症対策の手引き』は、各企画で行う感染症対策を検討するにあたって、参考となる感染症対策を企画形態や内容に応じてまとめたものです。
- 「**必須の感染症対策**」は、**全企画遵守する必要があります。**
- p. 4以降に記載の企画形態や内容ごとの感染症対策は、各企画で感染症対策を検討する際の参考とし、**必要に応じて行ってください。**
 - » 特に、「**必須の感染症対策**」を行うことができず、代替の感染症対策を検討する際の参考としてください。
- **掲載されたすべての感染症対策の徹底を委員会として求めるものではありません。**
- 五月祭当日前の企画準備においても、本資料を参考に感染症対策を行ってください。
- 感染症対策は、委員会が一括して大学と調整を行いますので、大学に直接問い合わせないでください。
- 社会情勢などを勘案し、今後感染症対策の基準を緩和する可能性があります。

必須の感染症対策

この章に記載する感染症対策は、いずれも必須の感染症対策になります。必ず実施してください。

全企画

- 企画実行および準備・片付けにあたっては、企画構成員は**マスクの常時着用**を徹底してください。
- マスクの常時着用を行うことができない企画は、代替の感染症対策として、以下のいずれかを必ず行ってください。
 - 人同士の**1m以上**の距離の確保
 - マスクを外している間の**発話の禁止**
- 上記の感染症対策をいずれも行うことができない場合、代替の感染症対策について、委員会を通じて大学と調整を行う必要があります。
 - » フェイスシールドの着用やパーテーションの設置など、代替の感染症対策を検討してください。
 - » 代替の感染症対策が不十分な場合は、さらなる対策を求める可能性があります。

飲食物を提供する屋内企画

- 飲食物を提供する屋内企画は、企画場所内に来場者の**飲食専用スペースの設置**を行ってください。
 - » 購入した飲食物は企画場所内の飲食専用スペースで飲食することを義務付け、来場者が持ち帰りを行わないよう徹底してください。
 - » 企画場所内の飲食専用スペースの席数にあわせ、企画場所における来場者の同時滞在人数を制限してください。
 - » 飲食専用スペースの設置を行うことができない場合は、代替の感染症対策について大学と調整を行う必要があります。

2.屋内企画

屋内企画は、以下のような感染症対策を行うことを推奨します。各企画で感染症対策を検討する際の参考としてください。

屋内企画共通の感染症対策

- 企画構成員について、マスクを着用している場合は、**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**を確保する。
- 企画構成員について、マスクを着用できない場合は、**1m以上の距離**を確保する。
- 企画構成員について、マスクを着用できない場合は、**発話を控える**。
- 咳エチケットを徹底する。
- 企画場所の窓と出入口を開放しての換気や、機械を用いての換気をこまめに行う。
 - » 控室として利用する場合も同様です。
 - » 企画内容の都合上こまめに換気ができない場合は、可能なタイミングで換気を行うよう徹底するといった対策があります。
- 利用する企画場所をこまめに消毒する。
 - » 特に椅子の背もたれ、手すり、ドアノブ、マイクなど、多くの人が触れる場所やものが消毒箇所として挙げられます。
- 食事は感染症対策をとりつつ行う。

企画内容ごとの感染症対策

展示を行う企画

- 展示物などの接触感染のリスクに繋がりがやすい箇所について、可能な限り接触頻度を抑えるとともに、こまめに消毒する。

歌唱を行う企画

- 歌唱者から客席までの距離は**2m程度**の距離を確保する。
- マスクを着用せずに歌唱する場合、歌唱者同士の距離は**前後直線上に2m程度、左右は1m程度**の距離を確保する。
- 歌唱者同士が向かい合う配置は避ける。
 - » 歌唱者同士が向き合わない市松模様状の並び方とし、斜め前方の出演者との距離を**1m程度**確保するといった対策があります。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

集団で楽器の演奏を行う企画

- 近距離で向かい合う形での演奏を避ける。
- 舞台前方で客席に向かいトランペット・トロンボーンを演奏する場合は、演奏者から客席最前列まで水平距離で**2m以上**の距離を確保する。
- 大規模編成の吹奏楽、オーケストラなどの場合、トランペット・トロンボーンは前方の演奏者との距離を**1.5m以上**の距離を確保する。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

バンド演奏を行う企画

- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

パフォーマンスを行う企画

- 人同士が互いに触れない程度の距離（**50cm程度**）が確保できる演目・プログラムを検討する。
- 演目間の移動やパフォーマンス中の配置移動などによって企画構成員が一時的に接近する場合は、密集する時間なるべく短時間で済むようにパフォーマンスの内容を調整する。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

来場者体験型の企画

- 人同士の十分な間隔が確保できる企画内容を検討する。

3.屋外企画

屋外企画は、以下のような感染症対策を行うことを推奨します。各企画で感染症対策を検討する際の参考としてください。

屋外企画共通の感染症対策

- 企画構成員について、マスクを着用している場合は、**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**を確保する。
- 企画構成員について、マスクを着用できない場合は、**1m以上の距離**を確保する。
- 企画構成員について、マスクを着用できない場合は、**発話を控える**。
- 咳エチケットを徹底する。
- 利用する企画場所をこまめに消毒する。
 - » 特に椅子の背もたれ、手すり、マイクなど、多くの人が触れる場所やものが消毒箇所として挙げられます。
- テント内などの企画場所で企画構成員が密集しないようにする。
- テント内は十分に換気が行われるようにレイアウトを工夫する。
- 食事は感染症対策をとりつつ行う。

企画内容ごとの感染症対策

歌唱を行う企画

- 歌唱者から客席までの距離は**2m程度**の距離を確保する。
- マスクを着用せずに歌唱する場合、歌唱者同士の距離は**前後直線上に2m程度、左右は1m程度**の距離を確保する。
- 歌唱者同士が向かい合う配置は避ける。
 - » 歌唱者同士が向き合わない市松模様状の並び方とし、斜め前方の出演者との距離を**1m程度**の距離を確保するといった対策があります。
- 演目間の移動やパフォーマンス中の配置移動などによって企画構成員が一時的に接近する場合は、密集する時間なるべく短時間で済むようにパフォーマンスの内容を調整する。
- 企画構成員は、企画場所に来場者が密集せず、来場者間に**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**が確保できるように呼びかけを行う。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

集団で楽器の演奏を行う企画

- 近距離で向かい合う形での演奏は避ける。
- 来場者に向かいトランペット・トロンボーンを演奏する場合は、演奏者から客席最前列まで水平距離で**2m以上**の距離を確保する。
- 大規模編成の吹奏楽、オーケストラなどの場合、トランペット・トロンボーンは前方の演奏者との距離と**1.5m以上**の距離を確保する。
- 演目間の移動やパフォーマンス中の配置移動などによって企画構成員が一時的に接近する場合は、密集する時間なるべく短時間で済むようにパフォーマンスの内容を調整する。
- 企画場所に来場者が密集せず、来場者間に**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**が確保できるように企画構成員は呼びかけを行う。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

パフォーマンスを行う企画

- 人同士が**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**が確保できる演目・プログラムを検討する。
- 演目間の移動やパフォーマンス中の配置移動などによって企画構成員が一時的に接近する場合は、密集する時間なるべく短時間で済むようにパフォーマンスの内容を調整する。
- 企画場所に来場者が密集せず、来場者間に**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**が確保できるように企画構成員は呼びかけを行う。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。

4.ステージ企画

ステージ企画では以下のような感染症対策を行うことを推奨します。各企画で感染症対策を検討する際の参考としてください。

ステージ企画共通の感染症対策

- 企画構成員について、マスクを着用している場合は、**互いに触れない程度の距離(50cm程度)**を確保する。
- 企画構成員について、マスクを着用できない場合は、**1m以上の距離**を確保する。
- 企画構成員について、マスクを着用できない場合は、**発話を控える**。
- 咳エチケットを徹底する。
- 演目間の移動やパフォーマンス中の配置移動などによって企画構成員が一時的に接近する場合は、密集する時間なるべく短時間で済むようにパフォーマンスの内容を調整する。
- 利用する企画場所をこまめに消毒する。
 - » 特にマイクなど、多くの人が触れる場所やものが消毒箇所として挙げられます。
- 来場者が大声での発声や接触などの感染リスクの高い行為を行わないよう注意する。
 - » コール&レスポンスやハイタッチなどがこれにあたります。
- 機材を触る人を最小限に抑え、機材を触る前や触った後には消毒・手洗いを徹底する。
- 食事は感染症対策をとりつつ行う。

企画内容ごとの感染症対策

歌唱を行う企画

- 歌唱者から客席までの距離は**2m程度**の距離を確保する。
- マスクを着用せずに歌唱する場合、歌唱者同士の距離は**前後直線上に2m程度、左右は1m程度**の距離を確保する。
- 歌唱者同士が向かい合う配置は避ける。
 - » 歌唱者同士が向き合わない市松模様状の並び方とし、斜め前方の出演者との距離を**1m程度**確保するといった対策があります。

集団で楽器の演奏を行う企画

- 近距離で向かい合う形での演奏は避ける。
- 舞台前方で客席に向かいトランペット・トロンボーンを演奏する場合は、演奏者から客席最前列まで水平距離で**2m以上の距離**を確保する。
- 大規模編成の吹奏楽、オーケストラなどの場合、トランペット・トロンボーンは前方の演奏者との距離と**1.5m以上の距離**を確保する。

5.構外企画

構外企画を実行する場合でも、本資料を参考にして行う感染症対策を検討してください。加えて、以下の点に留意してください。

- 事前の準備などで外部の施設を利用する場合には、その施設の利用条件を遵守する。
- 公開する映像を事前に撮影する場合は、撮影時期に応じて適切な感染症対策を行う。

感染症対策の手引き

2023年3月17日(金)発行

発行：第96期五月祭常任委員会

Email: contact@gogatsusai.jp

※ 企画の方からの連絡には、原則としてウェブシステムの「問い合わせ」を利用して
してください。

本郷本部

〒113-8654
東京都文京区本郷7-3-1
東京大学構内
第二食堂3階6号室
TEL: 03-5684-4594

駒場支部

〒153-8902
東京都目黒区駒場3-8-1
東京大学構内
キャンパスプラザA棟1階103号室
TEL: 03-5454-4349